

しみずの教育

ちょっといい話

【平成29年1月号】

清水小学校

校長 山下 勇

5年生と年長児、1年生と年長児との交流会

幼保・小連携事業の一つとして、11月28日（月）に幼稚園や第一保育所、第二保育所の年長児と5年生、12月9日（金）に1年生との交流会を行いました。5年生は、年長児たちを楽しませようと「じゃんけん汽車ぽっぽ」や「転がしドッジボール」、「宝探し」を企画しました。ゲームの説明をしたり、年長児と積極的に対応したりする姿は、とても丁寧で生き生きとしていました。高学年としての自覚とやる気が伝わってきました。

1年生は、「学校たんけん」等のゲームを通して、一緒に遊びながら交流を深めました。小学校の先輩という意識で、優しく関わっていた姿が印象的でした。幼稚園や保育所の担任の先生から、「年長児の子どもたちは、小学校へ行くことをとても楽しみにしているようです。」との連絡をいただきました。年長児が、わくわく感とやる気をもって、笑顔でスムーズに小学校へ入学して来ることを願っているところです。各事業を通して、幼稚園・保育所と小学校と連携が深まり、子どもにとって、よりよい学びの環境がつけられているのは、本事業の成果のひとつです。



5年生企画の「宝探し」を楽しんでいる年長児たち。



「じゃんけん汽車ぽっぽ」を一緒に楽しむ年長児と1年生。

6年生「誕生学」を学ぶ

12月16日（金）は、保健の学習で取り組んでいる「誕生学」。誕生学アドバイザーの高田めぐみ先生をお招きし、子ども一人一人がこの世に生まれてきたことの素晴らしさや命の大切さを学んでいます。



〈子どもたちの感想から〉

- ・赤ちゃんの力ってすごいなあと思いました。
- ・自分の命を大切にしないといけないと思いました。
- ・お母さんに育ててもらったことを感謝しないといけないと思いま



た。

- ・親の愛情があることでしゃべったりすることができることもわかりました。

6年生「バイキング給食」を味わう

12月20日（火）は、楽しみにしていた「バイキング給食」。主食や主菜、副菜、果物、デザートなどたくさんのメニューが用意されたバイキング給食会。毎日、子どもたちのことを思いながら、美味しい給食を作っている調理員さんたちと交流するとともに、美味しい給食を提供していただいていることや食べられることに感謝しながらの和やかな給食会となりました。子どもたちのお腹も心も満足感と満腹感で満たされていました。子どもたちにとっては、小学校生活の楽しい思い出の一つになった給食会でした。

スケートリンク開き

12月22日（木）終業式の日、小雪降る中で恒例のスケートリンク開きを行いました。スケートリンク造成協議会の会員の皆様（保護者や職員、地域の方々）の献身的な造成作業によりスケートリンクが完成し、12月24日（土）から子どもたちや幼児、保護者の皆様に利用いただいています。冬休み中はもちろんですが、3学期は体育での「スケート」学習や放課後などでも、スケートを楽しんでくれることを願っています。多くの市民の皆様にも利用していただければ幸いです。

〔開放時間は、午前9時から午後3時30分まで。また、開放期間は2月上旬までの予定です。〕

*今年度、株式会社 中山組様の地域貢献事業や清水小学校同窓会及び清水町からのご支援により、スケートリンク造成のための外灯がグラウンドに二基設置されました。おかげさまで、明るい中で安全にスケートリンク造成及び管理することができるようになりました。多くの皆様のご理解・ご協力、ご支援に心から感謝いたします。

御影小学校

全校給食会

12月20日（火）に「全校給食会」を行いました。全校児童が縦割り班に分かれ、各教室で6年生のリーダーシップのもと、協力して配膳を行い、楽しく給食を食べました。2年生教室では、6年生がクイズを出して、みんなが仲良く、楽しく食べることができました。



しみず「教育の四季」子どもフォーラム

町内の小中高5校の児童生徒の代表者が一堂に会し、「いじめ」について活発な議論を行いました。

本校からは、児童会三役の3名が出席し、堂々と意見を発表しました。フォーラムが終わった後、様々な方から御影小学校の子どもたちの発表・発言素晴らしかったとお褒めの言葉を頂きました。



(教頭 川崎 広輝)

清水中学校

生徒会の活躍

生徒会役員は、文化祭を境に新旧交代し、2年生中心の役員体制となりました。後期は大きな行事ありませんが、あいさつ運動・美化活動・ボランティアなどの日常の活動にじっくり取り組んでいます。

保健美化委員会では「キレイラ中」という特別清掃週間を設定。

可愛らしい掲示物で活動を盛り上げています。



生徒会書記局のボランティア活動。ゲーム性を取り入れたエコキャップ集め大会や街頭に出るの歳末助け合い募金活動を実施しました。集まったキャップや募金は町の社会福祉協議会に寄付をしました。



(教頭 伊澤 理紀)

たくさんの表彰者

2学期は活躍した生徒が多く、終業式では38名が表彰伝達式で名前を呼ばれました。十勝子ども大会や清水町子ども大会、アイスホッケー部の快進撃等、次々と賞状やカップなどが手渡されました。一番多い生徒は、1人で5枚の賞状を受け取った人もいます。

主な表彰内容は次のとおりです。

- ・全十勝中学校アイスホッケー大会……優勝
- ・NHK杯アイスホッケー大会……優勝
- ・十勝子ども大会意見発表の部……優良賞
- ・十勝子ども大会書写部門……特選、秀作
- ・十勝子ども大会デザインの部……特選
- ・十勝子ども大会技術・家庭科の部……特選



そのほかにも、佳作、入選など、たくさんの賞をいただきました。



中でも、今回の注目は、第9回全十勝児童・生徒短歌大会で、そろって佳作をいただいた姉妹です。12月17日（土）に藤丸7階で表彰式があり、二人はそこで表彰されました。表彰式には出席となりませんでしたが、入選に選ばれた作品もありました。



- 佳作 「キラキラと光るラムネの泡ごしに
夏の太陽涼やかになり」
- 佳作 「ぼんおどりがすかに聞こえるよぶこえの
かなでる音色終わりゆく」
- 入選 「蝉時雨儂い命精一杯 謳うように鳴き続けたり」

いずれも日本の夏を歌った感性豊かな作品です。二人の佳作作品は短冊にして会場に展示されました。



さらに同姉妹は、俳句大会でも入賞しています。1月7日に同会場で入賞式が行われ、再び栄誉を手に入れました。俳句大会では、最優秀賞1名、佳作に2名が選ばれ、合わせて3名が表彰されています。

- 最優秀賞 「十勝晴れ 小麦畑に 波が立つ」
- 佳 作 「せいくらべ やっと追い越す とうきびを」
- 佳 作 「大輪が 夏の夜空に 舞い上がる」

若い感性に地域からも賞賛の声をいただきました。子どもたちがのびのびと活動し、その結果素晴らしい賞をいただくことができる喜びをかみしめながら、今後さらに活躍の場を広げて行くことができるよう、教職員一丸となって支援して参りたいと思います。

(教頭 宗形真恵)

清水高等学校

新しい年に思う ～ 子どもたちの力

校長 西嶋潤一

年末から年始にかけての各種会合で、平成28年は清水町にとって、かつて経験したことのない大変な年だったとのお挨拶を聞きます。台風被害、8月30日(火)夜からのペケレベツ川等の大氾濫、12月16日(金)には鳥インフルエンザの発生、日照不足と長雨による凶作等々。あらためて被害にあわれた方には慎んでお見舞いを申し上げます。

高校そのものは断水とJRの不通以外は大きな影響はなかったのですが、「大変でしたね」と言われる度に被害にあった方を思い、12月16日は、十勝の校長会議の最後の場面で教育支援課長から「清水で鳥インフルエンザ発生」の最新情報が発表、会場からは「また、清水か」の声で、気持ちが落ち込むのは致し方無かったかと思っています。

だからこそその新年、年頭の様々な挨拶に「今年は良い年に！」の力強い言葉が発せられるのは当たり前なことなのかな、と考えます。年があらたまって、気持ち新たに前向きに過ごしたい、清水の皆さん全員の思いなのではないのでしょうか。

1月4日(水)に町の新年交礼会に参加しました。いつもだともう少し遅い日程で、道の校長会と重なり出席できないのですが、今年は校長会も1週間遅く、日頃ご無沙汰している沢山の方にご挨拶できました。

交礼会の最後、万歳三唱の場面で商工会長さんが、台風被害の際、小中高生がボランティア等で活躍した話を紹介されていました。町に子どもたちの姿があって、何かの際に活動できる素晴らしさのお話です。振り返ると8月31日、取りあえず臨時休校を決めたものの、被害に遭わず登校できる高校生に何ができるか、非常の時だからこそ机に向かうことよりも優先して出来ることが大きな学びにつながる、そんな教職員の考えを生徒は様々な形で実践してくれました。1年次は宿泊研修に行けない代わりに給水所で水運びのお手伝い、交通手段が無くて学校に来られない芽室の数人が自主的に泥のかき出しに行った話は9月号で紹介しました。アイスホッケー部、生産技術系列も部活動や授業の中でお手伝いできたかと思っています。

お正月に道南の奥尻高校が紹介されていました。全校生徒が40名程度、存続をかけて町立に移管、全国から生徒を集めるお話です。下宿先を確保するために島内の民宿が協力し、島の中に子どもたちがいることの重要性を話されていました。スキューバーダイビング等、他の高校には無い魅力があるのですが、それでは反響が少なく、結局、進学のための学習に東

京の大学の協力を得て、大学生とインターネットでつながって勉強。それを魅力として1月の生徒募集に臨む。さて、生徒は集まるか、というまとめだったかと思います。

清水高校も「ドリームチャレンジ宣言」後の初の生徒募集となります。

特別な魅力のために数人が集まるよりも、普通の魅力、普通の高校として勉強も部活動も思い切り取り組み、自分の将来の夢を実現させていく基礎を作る。集まった高校生が、町の活動に参加し、町で学び、町に協力できる、町の中に高校生があふれている。それが校長としての初夢です。

1月16日（月）からは栃木県日光市で全国高等学校アイスホッケー選手権大会も始まります。

昨年の今頃に比べると大会でなかなか結果を出せていないチームですが、走力はどのチームに負けないものがあり、冬休み中の伸びや精神面の充実に期待できると考え楽しみにしております。

皆様のご声援をお願いします。

清水高校、本年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。



【12月10日 合唱祭】



【12月13日 生産技術系列
清水幼稚園との食育交流】

清水幼稚園

園長 福原幸江

お店屋さんごっこ・・・おまつりもありました！！

子どもたちが話し合い、グループ名を決めました。

ラベンダーグループは、お店屋さんとして「おまつり」運動遊びとして「うみすぽーつ」をテーマにしました。

くろーばーグループは、お店屋さん「おはなやさん、じゅーすやさん」運動遊び「すいぞくかん」にしました。

ばななとんかつグループは、お店屋さん「げーむらんど」運動遊びとして「うみらんど」を皆で決めて、準備をしてきました。

12月9日（金）当日は、お店屋さんになったり、お客さんとし



て色々なお店を訪ねたりしました。それぞれのグループで工夫して作ったお金を使い、買い物をした後はいよいよ運動遊びです。酸素ボンベを背負って海の中を探検したり、魚のまとあてゲームなどで楽しみました。

帰りの絵本バッグは、綿あめやかき氷、チョコバナナ、びっくり箱で一杯になりました。



パン作り体験！・・・清水高校に行きました



12月13日(火)の雪が降っている中、高校へ出発。高校へ着くとお兄さんお姉さんが待っていてくれました。すぐに着替えをして、まずは試食用の人参パンを丸くこねました。その後、膨らませるオーブンに入れてくれました。

次は、大きいパンの生地をもらい、リボンやハート、星、パンダ…自分で考えた形にしましたが、粘土のようにはうまくいかず、高校生に手伝ってもらいながら見事に完成しました。焼き上がるまでの時間に、スイーツの味比べ！！をしながら「甘い・酸っぱい・しょっぱい・苦い」4つの味の違いを学習しました。その後は、今流行の「ポケモンGO」を用意してくれていたもので、壁や教室に隠れ



ているポケモンを高校生と一緒に探しに行きました。全部見つけた頃には、パンができあがっていました。

早速、食べると、みんな「おいし〜い」とモグモグ食べていました。

閉会の時には、『味博士』の認定証とペンダント、持ち帰り用のパンをいただき、心もお腹もいっぱいになって帰ってきました。

第一保育所

みんな大好き、雪あそび

外は寒いですが、子どもたちは元気に雪で遊んでいます。12月23日(金)に降った雪で父母会の役員さんが雪山を作ってくれました。子どもたちは大喜びで、ソリを持ち、元気いっぱい雪山を目指します。最初は登るのも大変そうでしたが、何回か登るうちに順序よく登ったり滑り降りたりすることができるようになりました。「おもしろかったね」、「まだあそびたい」と子どもたちは寒さで顔を真っ赤にさせながら、ニコニコの笑顔です。素敵な雪山に感謝です。まだまだ寒さが続きますが元気に遊びたいと思います。



(保育士 増谷 妙子)

サンタさんってすてきだね

12月20日（火）クリスマス会が行われました。朝から何となくそわそわした雰囲気のある保育所でしたが、ゆうぎ場にはすでに子どもたちが作ったリースやサンタクロースが飾り付けされ、クリスマスツリーもいつも以上にピカピカしていました。数日前にはサンタさんからの手紙も披露され、気持ちが盛り上がっていたと思われます。



クリスマス会が始まり、歌や踊りのあとサンタさんが登場すると息を呑む子どもたち……。そして、クラスの代表の子が質問するコーナーでは「サンタさんの好きな人は誰ですか？」と年長児の女の子が聞くと「ミセス、クロース」という答えでした。ほかに「サンタさんはどうしてとべるの？」という質問も出て、サンタさんは「ぼくとトナカイのふしぎなちからがあるからだよ」とサンタさんの不思議について聞くことができました。それからサンタさんから一人ひとりにプレゼントをもらい、お別れの時間が来ました。サンタさんは、次のよい子にプレゼントを配るため、泣く泣く空へ帰って行きました。来年、ぜひミセス、クロースといっしょに来てほしいなと思った一日でした。

（保育士 青 沼 広 子）

第二保育所

ぺったんぺったん おもちつき

12月2日（金）第二保育所の遊戯場でおもちつきをしました。きねやうすを使ったおもちつきを見るのも初めての子もいて、興味深そうに見つめていました。

役員のお父さんがおもちをついてくれて、それに合わせて「ぺったん！ぺったん！」と声をかけたり、おもちつきの歌をうたったりして、力強くつく姿に「すごーい！」と驚いていました。

子どもたちもひとりずつ、子ども用のきねで順番についてみましたが、思ったよりきねが重くて大変なようでしたが、がんばっていました。

4・5歳児さんは、ついたおもちを自分の手で丸めて、「やわらかい〜」「あったかいね」とつきたてのおもちの感触に感動していました。

「あんこもちおいしかった！」「しょうゆ味食べたよ」等々、終わった後も会話を楽しんでいました。



（保育士 渡 辺 慶 子）

雪遊びを満喫中！

降り積もった雪のおかげで、保育所の園庭にはなんと2つも大きな坂が出来ました。そんな素晴らしい環境の中、寒さなんてどこ吹く風？冬にしか出来ない体験を満喫中の子どもたち。

担任の「雪遊びに行きますよ～」の声に「イエーイ！」と大はしゃぎの子どもたち。

小さいクラスから大きいクラスまで時間を見付けては身支度を整えて園庭にとび出し、雪の上を走りまわったり、穴をほったり、ソリ滑りをしたり、雪だるまを作ったりと思い思いの雪遊びにひとみをキラキラ輝かせ楽しんでます。部屋に戻ってくるとほっぺを真っ赤にして「おもしろかったね」と興奮気味におしゃべりがはずんでいます。

何度も遊びに行くうちに、つなぎのジャンパーの着脱や手袋をしたり、遊んだあとの始末も上手に出来るようになってきています。

この後も子どもたちの雪遊びはまだまだ続きます！

雪が解ける頃には、さらにたくましく成長していることでしょう。

(保育士 匂坂裕子)

御影保育所

楽しかったお正月

1月6日（金）から開所し、丸々とお正月太りをして笑顔いっぱい朝、登所してきた子どもたち。子どもの笑顔の内にはお正月楽しかったこと、そして、感じたことが沢山あったのだろうと感じます。

さっそく子どもたちに、「お正月はおじいちゃん、おばあちゃんのお家に行ったの？」と聞いてみると、「うん！おじいちゃん家でね、お絵描きしたりテレビ観たり、お寿司食べたよ！」とお話してくれる子もいれば、「あのね、お年玉もらった！」とお話してくれる子もいて、どちらも楽しそうにお話をしてくれました。お正月はゆっくり過ごせたようですね。

子どもたちのお正月の思い出を聞き、ほっこりすることができました。

もも組、こんなに成長したよ！

1月になり、もも組として9カ月を迎えた今も、子どもたちは毎日元気いっぱいに過ごしています。

4月当初は慣れない環境と、お父さん、お母さんから離れ、寂しさのあまりに涙、涙の日々が続いた子どもたち。しかし、徐々に保育所生活を受け入れ、今では登所と同時にもも組の保育士を見付けては、「てんてえ～！！」とお腹を前につき出し、全速力で走って来てくれるようになりました。

保育所生活にも慣れ始めた頃、「自分でやってみる！」という気持ちが出てきて、挑戦してみるものの、なかなか上手くいかず泣いてしまったり、眉間にシワを寄せ、「手伝って！」と保育士に視線を送りお願いする子どもたち。日々、繰り返し繰り返し、自分なりに挑戦していくことで、今では小さな手で器用にズボンを脱いだり、口を拭いたおしぼりを袋の中に入

れて靴の中にしまったりと、できることが増えました。

保育士1年目の私にとって、もも組の子どもたちと約9カ月共に過ごしてきて、毎日感じるものがたくさんあります。子どもたちも日々成長していますが、私自身も子どもたちのおかげで日々成長することができています。もう少しでさくらんぼ組になる子どもたちですが、もも組での日々を忘れず、そして日々成長してほしいです。



(保育士 福田 沙 彩)

教育委員会

素敵なふれあいの場

夏・冬休み中に清水小学校は「ふれあい子ども学びのサポート教室」、御影小学校は「夏・冬休みサポート学習会」の名称で、3年生以上の子どもたちへの学習支援を行っています。その講師陣は元教員、清水高校生、大学生、現職教員です。

この活動は、当所、元教員で始まりましたが、進める中で高校生と大学生が講師として参加してくれるようになりました。将来学校の先生を目指す子たちが加わり、大きく支援の輪が広がりました。同時に、子どもたちの目の輝きも変わりました。子どもたちとの年齢差も少なく、お姉ちゃん・お兄ちゃんの間で教えられることの喜びでしょうか。ちょっと照れながらも、にこにこと、とっても微笑ましい一時が生まれていました。大学生はまさに教育実習です。教える側の勉強の場でもあるわけです。指導にも熱が入ります。楽しい話をしながら、子どもを飽きさせることなく指導する姿は、さすが教師の卵です。

子どもたちからは「楽しく勉強ができました」「とっても分かりやすかった」という感想。高校生・大学生からも「とっても勉強になった」という声が聞かれました。まさにこれこそ、お互いが良かったという関係性「互恵性」であります。この学習支援が、教科指導のみにとどまることなく、この活動をとおして、とっても素敵な「ふれあいの場」にもなっている事が素晴らしいと思いました。

(教育指導幹 清水 彦 一)



家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から感性あふれ、表情豊かな子を育てる

冬～厳しさに生きる人の中で きたえ磨く

家庭・学校・地域

今月の取組

家庭は、みんな揃って

楽しい団らん

地域は、向こう三軒

みんな家族